

SR-S316C2 V13.00 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	無線LAN管理機能	弊社製の無線LANアクセスポイント機器(SR-M20AP1)を対象とした以下の無線LAN管理機能を追加しました。 1. アクセスポイントモニタリング機能 - アクセスポイントをグループごとに設定、操作、状態表示を可能とします。 2. 周辺アクセスポイント検出機能 - 無線LANの電波を監視し、周辺に存在するアクセスポイントを検出します。 3. クライアントモニタリング機能 - 無線LANの端末および電波強度を監視します。 4. MACアドレスフィルタ配布機能 - 管理無線LANアクセスポイントでの無線LAN端末の接続可否を制御するMACアドレスフィルタリングを集中管理し配布します。 5. 電波出力自動調整機能 - 管理無線LANアクセスポイントの無線送信出力を自動的に調整します。 6. 装置リセット機能 - 管理無線LANアクセスポイントをリセットします。 7. チャンネル自動調整機能 - 管理無線LANアクセスポイントの無線LANモジュールに対して、最適な空チャンネルまたは無線受信強度が比較的弱いチャンネルを自動的に割り当てます。
2	外部メディアスタート機能	装置起動時に外部メディア(USBメモリまたはCFカード)に格納されたファームウェアおよび構成定義を使った自動更新を可能としました。本操作は、操作用PCを使わずに実行できます。
3	コンフィグトライアル機能	commitコマンドによる、構成定義反映の有効時間を指定可能としました。
4	ループ検出機能強化	ループ検出機能について以下の改善を実施しました。 1. ループ監視フレームのペイロードに装置固有情報を設定することで、無線LANコンパタなどで、Ethernetヘッダ中の送信元MACアドレスが変更された場合でもループ障害を検出できるよう改善しました。 2. 認証ポート(IEEE802.1X/Web認証/MACアドレス認証)で複数のSR-SIにて構成された環境でループ障害を検出できるよう、他装置が送信したループ監視フレームを受信した場合にループ障害を検出する動作モードを追加しました。
5	LAのリンクダウン改善	リンクアグリゲーションを構成しているetherポートに対してVLANの追加・削除を行ってもリンクアグリゲーション状態を一旦リンクダウンさせないよう改善しました。
6	シスログ機能強化	シスログメッセージの転送機能について以下の改善を実施しました。 1. RFC3164にて推奨されている、ホスト名(またはIPアドレス)とタイムスタンプをシスログメッセージのヘッダ部に設定できるようにしました。 2. syslogサーバを3つまで指定できるようにしました。更に、サーバ毎に送信プライオリティの設定ができるようにしました。
7	装置固有パスワード機能	装置固有情報を用いて構成定義情報中のパスワード文字列を暗号化する機能を追加しました。
8	etherポートごとのLinkTrap制御	linkup/linkDownトラップをetherポート単位での送信可否を設定可能としました。
9	ストーム制御機能強化	ストーム制御機能について以下の改善を実施しました。 1. 監視トラフィックがしきい値を超えた場合に、シスログ出力のみを行う動作モードを追加しました。 2. 監視トラフィックがしきい値を超えた場合に、すべてのストームトラフィックを遮断する動作モードを追加しました。
10	ポートごとの最大認証端末数の拡張	IEEE802.1X認証/Web認証/MACアドレス認証ポートにおける、etherポートごとの最大認証端末数を100台に拡張可能としました。
11	VLAN数の拡張	VLAN設定最大数を4094に拡張しました。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.00~V12.07	SR-Sシリーズ装置がDHCPサーバとして動作中に配布済IPアドレスに対して、端末から“DHCP DECLINE”を受信するとDHCPサーバは以後装置再起動までそのIPアドレスでの配布をしなくなる。
2	V10.01~V12.07	リンクアグリゲーション(LA)の構成ポートに、ether startup offlineコマンド(起動時間閉塞)を動的に設定しLAがリンクダウンとなってもLAのリンクダウンリレー機能が動作しない場合がある。
3	V12.00~V12.07	etherポートに対するVLAN設定変更により装置内のVLAN登録数が最大値超過し設定失敗となった場合に構成定義情報を不正な値に書き換えてしまう場合がある。
4	V12.02~V12.07	本装置にftpp接続し、一度ログインに失敗したあと、同じ接続で再びログインを試みた場合、ログイン成功あるいは失敗のシスログに接続元IPアドレスが表示されない。
5	V11.00~V12.07	IPv6リンクローカルアドレスを宛先として本装置にftpp接続すると、関連するシスログ表示内の接続元アドレスのインタフェース名に%が2つ表示される。
6	V11.00~V12.07	IPv6リンクローカルアドレスしか持たないPCから、本装置のIPv6グローバルアドレスにftpp接続すると、ログイン/ログアウト時のシスログ表示内の接続元アドレスに「%インタフェース名」が付加されない。
7	V11.00~V12.07	show loopdetectコマンドで表示されるstatusが実際の状態と異なる場合がある。
8	V12.00~V12.07	terminal prompt login コマンドで任意のログイン入力プロンプト文字列を設定しても、電源投入直後やリセット直後に 未設定時の表示“Login:”が表示される。
9	V12.00~V12.07	ftpp接続でログイン後、userコマンドで不正なユーザ名あるいはパスワード入力でユーザ認証に失敗しても、ログイン成功のシスログが出力される。
10	V01.00~V12.07	コンソールで表示コマンドを連続入力すると、自装置向けのパケット受信および自装置からのパケット送信動作が停止することがある。
11	V11.00~V12.07	表示量が多いコマンドでページャ(terminal pager enable設定 あるいは moreコマンド)を利用すると、自装置向けのパケット受信が停止することがある。
12	V01.00~V12.07	ページャ機能有効時、コンソールで1画面未満の出力をする表示コマンドを連続入力すると、自装置向けのパケット受信および自装置からのパケット送信動作が停止することがある。
13	V01.00~V12.07	本装置にtelnet接続してユーザ認証に失敗した後の3秒間で自装置向けのパケットを8フレーム以上受信すると3秒間経過までの間、自装置宛てのフレーム受信が停止する。
14	V01.00~V12.07	1519byte以上の正常フレームが、Oversizeエラーでカウントされる。
15	V10.00~V12.07	1ポートで802.1xとWEB認証を併用した時、STPを有効にすると定義矛盾(Web認証とSTP併用による)が発生しポートがリンクダウンしdisable状態になる。この時802.1xの認証状態が初期化されず保持されたままになる。
16	V03.00~V12.07	MACアドレス認証にてRADIUSサーバから通知されたTunnel-Private-Group-IDが不正な値(0や4095)の場合に適切なシスログメッセージが表示されない。
17	V01.00~V12.07	aaaのユーザIDを126文字以上で設定したとき、IEEE802.1x認証の認証初期化時にリブートする。
18	V12.00~V12.07	ARP認証不要IPアドレスが設定された端末に対して、誤ってARP認証を行う場合がある。
19	V01.00~V12.07	IEEE802.1X認証状態表示コマンド(show dot1x port)の表示内容に次の不正な表示がある。 1) 認証端末の切断後、show dot1x port にて切断した端末のユーザ名情報が表示される 2) 複数のサブリンク接続時に show dot1x port コマンドで表示される、認証成功/失敗回数が該当ポートの累積回数になっている
20	V01.00~V12.07	MSTPのinstance設定の動的定義変更(stp domain Xの削除&追加)を繰り返すとメモリ枯渇によりシステムダウンすることがある。
21	V12.02~V12.07	スタティックARPで定義されたARPエントリの学習ポート番号が不正に変更される場合がある。
22	V01.00~V12.07	認証結果待ち状態中にWEB認証ポートがリンクダウンした場合に、不正に認証端末情報を登録する場合がある。
23	V10.00~V12.07	ARP認証で認証失敗した端末がVLANを移動すると、通信妨害が行われないことがある。
24	V10.00~V12.07	ハードエラーが常時発生している状態で、clear logging errorコマンドを発行するとFLASHメモリ内に同一ハードエラーログ情報が重複して記録されることがある。